



人から選ばれるまちについて

いま いとし ひろ
今井敏博 (新風新政会)

安中市の移住・定住支援について

問 お試し移住、住まいりー奨励金の成果は。

答 (企画政策部長) お試し移住については、移住に繋がったのは1件で、レジャー目的での利用実績もあったことから、新たな施策を検討します。住まいりー奨励金については、開始から昨年度までの2年3カ月で移住者は428人、県外からは56人です。定住の動機付けが弱いので、マイホーム取得支援金に切り替え、増額しました。

問 新たな支援の考え方・方針については。

答 (同部長) 子育てに係る軽減策として、来年度から出産・子育て応援給付金に市独自での上乗せ、保育所・こども園での副食費の無償化などを実施します。

結婚・出産・子育ての支援について

問 現在行われている出産育児一時金、子育て支援の課題や、今後の取り組みは。

答 (保健福祉部長) 50万円の一時金を支給していますが、出産費用を引き上げている医療機関もあり、国では令和6年4月から分娩施設ごとの費用やサービス内容などをウェブサイトで見える化する方針です。さらに、令和8年度を目途に保険適用の検討を進め、課題の解消に向けて国へ要望を行います。新たに来年度、マタニティ・サポート給付金事業として、出産応援給付金・子育て応援給付金を検討していきます。

その他、魅力的な観光振興を質問しました。



ふるさと回帰支援センターで行われたオールぐんま移住フェア



防災対策について

おがわ つよし
小川剛 (清風クラブ)

火山災害について

問 浅間山噴火での本市への影響はどうか。

答 (総務部長) 過去の資料では、1783年の噴火は横川地区で25cmの降灰が、1973年の噴火では横川・坂本地区で1cmの降石、松井田地区で降灰が確認されました。

問 浅間山噴火の降灰を経験している住民は50年前の1973年の噴火が最後で、火山灰の被害状況や生活への影響はどうか。

答 (同部長) 本市に関する浅間山噴火に関する公式資料が無いため、影響は不明です。

問 大規模噴火の降灰予測では、20cm以上積もる想定に本市も入るが影響はどうか。

答 (同部長) 自動車や電車の走行不能や停電、通信障害、上下水道の機能不全、建物損壊、農作物被害等の可能性があります。

問 火山灰除去方法や置き場の協議はどうか。

答 (同部長) 道路管理者及び庁内関係部署と仮置き場等の選定の対応策を検討します。

災害時のトイレの環境について

問 断水や停電発生時は問題となるがどうか。

答 (総務部長) トイレが機能しないと使用をためらう避難者が増え排泄を我慢し水分や食品摂取を控え栄養状態悪化やエコノミークラス症候群等の健康被害が起こります。

本市独自での気象状況の把握について

問 小型気象計を設置し、地域の気象情報を市民へ提供する自治体があるがどうか。

答 (総務部長) 導入事例を参考に実用性や利便性、機能や導入費用を検討します。



2019年8月7日、浅間山噴火の様子 (前橋地方気象台ホームページより)